

	IN	OUT	シュート[総数/枠内/ゴール]				パス[総数/成功率%]							アタック[総数/成功率%]					コントロール[総数/成功率%]																																			
			総	右	左	頭	総	横	縦	後	スルー	ロング	センタリング	タックル(セーブ)	インターセプト	ブロック	クリア	競り合い	ドリブル	トラップミス																																		
2	橋本尚吾		0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	26	56.5%	17	15	88.2%	29	11	37.9%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	5	3	60.0%	0	0	0.0%	8	7	87.5%	0	0	0.0%	6	6	100.0%	5	5	100.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0			
10	竹内陽社		0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	12	57.1%	5	3	60.0%	12	5	41.7%	4	4	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	17	7	41.2%	1	1	100.0%	6	3	50.0%	3	2	66.7%	1	0	0.0%	4	0	0.0%	3
1	戸坂龍飛		0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	13	65.0%	6	3	50.0%	12	8	66.7%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	18	12	66.7%	1	1	100.0%	6	5	83.3%	8	5	62.5%	2	1	50.0%	4	0	0.0%	0			
8	林晴人		0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	22	68.8%	9	7	77.8%	21	13	61.9%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	6	2	33.3%	0	0	0.0%	2	1	50.0%	8	5	62.5%	1	1	100.0%	3	1	33.3%	3			
16	松原智也		0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	12	60.0%	6	4	66.7%	7	2	28.6%	7	6	85.7%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%	3			
6	栗本凌弥		1	0	0	1	0	0	0	0	0	25	23	92.0%	8	7	87.5%	10	9	90.0%	7	7	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	9	8	88.9%	1			
12	瀬川翔太		1	1	0	0	0	0	1	1	0	12	8	66.7%	6	4	66.7%	4	2	50.0%	2	2	100.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	4	2	50.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	4	0	0.0%	3						
18	佐々木柊弥		0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	16	80.0%	4	4	100.0%	13	10	76.9%	3	2	66.7%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	6	6	100.0%	0	0	0.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	1	0	0.0%	5	2	40.0%	4
39	小嶋大輔		2	1	0	1	1	0	1	0	0	29	18	62.1%	10	5	50.0%	12	7	58.3%	7	6	85.7%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	15	11	73.3%	1	1	100.0%	3	3	100.0%	6	4	66.7%	0	0	0.0%	12	6	50.0%	2						
11	川上裕陽		1	0	0	1	0	0	0	0	0	27	22	81.5%	12	11	91.7%	4	1	25.0%	11	10	90.9%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	11	6	54.5%	2			
7	秋山碧斗		0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	8	57.1%	9	4	44.4%	3	2	66.7%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	5	1	20.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	2	0	0.0%	3	0	0.0%	3			
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0						
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0						
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0						
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0						
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0						
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0						

	0~10	~20	~30	-	~40	~50	~60	非	0~10	~20	~30	-	~40	~50	~60
シュート					2	2	1	シュート	7	7	6		2	2	5
CK								CK	1	1	1		1		1
FK			1			2		FK							
PK								PK							
ゴール								ゴール	1	2	2				
ファール								ファール			1				1
イエローC								イエロー							
レッドC								レッド							
オフサイド								オフサイド							1



	選手名	IN	OUT	監督	コーチ
2	橋本尚吾			相手の強いシュートをしっかり弾き、前への飛び出しで危ない局面を何度も防げました。キック力についてはついてきていると思いますが、前の公式戦でも思いますが思うようなキックを試合で蹴れていないように思います。ゴールキックだけでなく、DFラインから前線への大きいキックは今後必要になってくる技術です。止まっても動いても正確に蹴る練習をチームメイトに相手してもらって行う時間を作っていきます。当日、2試合目の開始前に自分のポジションを分かっているということは監督・コーチからの注文書を確認していない証拠です。ただ試合をこなすだけになるのは時間がかからないことなので、その意識を一刻も早く変えて下さい。試合で何を狙って、何が出来たか、何が出来なかったから次こうしようというサイクルを作っていくようにしましょう。	基本的に素晴らしかったとおもいます。正直あんなに頼れるとは思ってませんでした。運動神経の良さが現れましたね。 キーパーとしてではなく、普段のフィールドとしての課題である最終ラインでの不注意のパスからの失点がありました。キーパーの位置での不慣れもあるかも知れませんが無くしていきたいでしょう。
10	竹内陽杜			もう一步のところで相手のパスに足が届かずブロック出来なかったり、相手に身体を入れてボールを奪ったのに相手に身体を入れられてサイドボールを奪われる場面があったので、純粋に2歩3歩の短い距離のスプリントを高めていくことも必要です。足の速さだけでなく、相手のボールを奪った時に、それを奪い返されないよう完全に相手とボールの間に身体を入れてキープする技術も練習していきましょう。 味方CBがボールを持った時に、位置取りが前過ぎて横パスを出したくても間に相手FWがいるので出せない状況が後半特に見られました。相手FWがプレスに来ていなくて味方CBの前にスペースがあるなら前の高い位置に進んでパスを受けるのは良いと思いますが、味方CBの近くに相手がいるときはしっかり後ろに下がって安全なパスコースを作るようにしましょう。	初戦という事で、噛み合わない部分や基本的なボールを受けるためのポジショニングの認識の低さはありませんでしたが、プレーに絡もう・ピンチを脱しようと意欲的に動き回る姿勢は見取れました。今はそれで良いです。チームの狙いを理解して、前に抜けるべきか後ろで構えるべきか実プレーで一つ一つ調整していきましょう。 止める・蹴るの基礎技術の低さが随所で見られていました。そこに至るまでのカバーや動き出し自体は悪くなかったが勿体無かったです。日々の練習から、特に足元に止める技術を徹底して追求していきましょう。
1	戸坂龍飛			力強いタックルでピンチを防いでいました。後半開始早々の相手突破も龍飛のプレスが無かったら良いシュートを撃たれて失点していたかもしれません。相手ボールを奪った後の処理に時間がかかったりクリアが前向きの相手に引っかかったりして相手にボールを奪われ攻撃を受けてしまっていたので、奪ったあと正確にパスを繋げたり相手を後ろ向きにさせる大きいクリアを心がけましょう。 後半に1つ陽杜への横パスが緩くなりゴール前で相手に奪われていたので、気を緩めず自陣でのパスを確実に繋げるよう徹底しましょう。	SB時も良かったですが、CBIに入った時に一気に締まったと思います。昨年夏にこちらが一年生で三年生に挑んだ時、体格差・スピード差で手に負えなかった事を考えると、同じ学年差の中で打ち負けないどころか所によっては押し潰せていたのは嬉しい驚きでした。キックそのものの質自体は高いので、危機管理が出来るようになれば即戦力になるのではと勝手ながら思っています。 CBIに入る際に、ポジショニングが少し高いです。SBとボランチに対して斜め後ろの逃げ道を作りながら、もう片方のCBとは基本的に平行か相手のFW次第では少し後ろに角度をとってパスをもらえるようにしてください。
8	林晴人			前半MFでプレーしているときに、裕陽がマークを離れた選手に対して晴人が自分のマークを捨ててプレスに行っていました、「裕陽寄せろ！」と指示して人数不利の状況を作らないようにしてください。そもそも相手MFにパスが入る前に味方MF同士でマークを確認して捕まえておくことが必要です。 相手のドリブルが大きくなったところをクリアしようとしていますが、蹴ったボールが正面の相手に当たって再度ボールを相手に渡っています。とにかくボールを蹴りだそうと焦っているため良い判断が出来ていません。相手が近くで蹴りだしても跳ね返りそうなら一度身体を入れてマイボールにしてからパスコースがあるか探し、後ろのキーパーに戻してもいいし、それでも逃げ道がないなら外に蹴りだしましょう。	序盤のボランチに入った時に相手を離さない意識は良かったのですが、中の選手にボールが入った時にせっかく捕まえていたはずの選手を手放してボールに詰めてしまっていたので、そこは味方を信用して自分は自分の目を離してはいけない選手を見るようにしてください。味方が抜かれたら、その時自分が行くべきかCBIに出てもらって自分がCBの位置に入るべきか考えるようにしてください。 CBIに入った時に、近場だけでなく裏のスペースに蹴れる意識も出てきているとおもいます。キック自体も悪くはないので、持ち運びながら裏に蹴り出す中長距離のキックは伸ばして行ってください。
16	松原智也			後半から攻撃に参加してワイドの駆け上がりからセンタリングで大チャンスを作ることが出来ました。良いタイミングでワイドのスペースでパスを引き出せていました。 1試合目に比べて碧斗が縦パスを受けに下りる動きを意識して狙っていましたが、次の中盤にパスが入らなかったため智也の前進はあまり効果がありませんでした。後ろの晴人からの縦パスは角度がきついし相手の注意も智也に向いたままになるので、やはり碧斗から晴人よりも中盤の凌弥・終弥に出したパスで相手の注意を一旦中へ持っていることが必要です。智也自身がワイドのスペースを有効に使うためにも「碧斗からもっとパスを受けて！」と味方中盤に要求していきましょう。	走りながらのパスがことごとく浮いたり、ミートしきれず流れてしまっています。裏に抜けてもらえるシーンも作れているし、晴人とは噛み合い始めていると思う中、智也がパスを通せないチャンスには繋がりません。入りながら縦に流す時にしっかりミートさせる、真横に蹴る時に走る力に流されて前に出してしまわないように気をつける事をしっかりと出来るようになってください。

6	栗本凌弥		<p>前線でプレーする時は相手を狭い方へ追い込んでいく寄せ方をしっかり意識できていました。そういった理解度の高さは凌弥の長所なので、今課題として前線への縦パスを前向きで受けに入るという形を実戦で作っていくためにどのタイミングで受けに入るのが良いのか・どの位置に入るのが良いのかを見つけていきましょう。</p> <p>この試合CBからの縦パスはなかなか入りませんでした。後半から碧斗が受けに入ろうという意識をもっていたし、縦パスも数本入っていました。そこに凌弥と柘弥2人が合わそうとする意識を持つことが必要でした。パスを受けた碧斗が1タッチか2タッチでパスを出せるタイミングで受けに入れるタイミングを次から狙っていきましょう。</p>	<p>メンバーも足らず結局、CFでの時間をあまり取られませんでした。DFラインに対して上手く追い込みができていたかとおもいます。その反面、1.5列目以降が捕まえていない状況で切ってしまう事で、縦に空いてしまっていることもあります。大前提として離れている1.5列目は悪いのですが、流れの中で間に合わないシーンはあります。後ろが間に合っていない時は、あえて縦に立って中に戻させることができればさらに良かったです。</p> <p>ポランチに降りてからも、ほぼほぼミスはなく、「竜太郎と永遠が前にいれば」と考えても仕方がないとすればを考えてしまうシーンは後半特に多かったです。新戦力も同じレベルで噛み合えるように声をかけて行ってあげてください。</p>
12	瀬川翔太		<p>1試合目と同じく、相手MFについて行けず中盤のスペースを有利に使われてしまいました。誰が誰をマークするのかを味方MFと話しながら確認することが必要ですが、まだ味方の名前もはっきりわからない初めての戦いでそれをするのは難しかったです。体力的にも1試合目同様厳しいところがあったと思うので、これからの課題として体力向上は必須と考えながら中盤の相手を絶対に捕まえるという意識を強くもちましょう。</p>	<p>左WGとして出場した序盤ですが、相手のDFラインでのボール回し時はCBIに対してはミドルサードに入られるまでプレスには行かず、ミドルサードを超えた段階でウチのCFがどちらかワンサイドに切るように決まっているので、基本的には左WGの翔太がCBに対してプレスに行かなくて良いです。</p> <p>一試合目の終盤からですが、元気が無くなっています。走りきれるだけの基礎体力を上げていきましょう。オフの日に余裕があれば、走るようにしてください。これから先、上に進むためにはいかにオフの日を有用に使うかが重要になってきます。</p>
18	佐々木柘弥		<p>相手のプレスを受けている大輔に対して、パスを要求して前のスペースを狙っている裕陽にパスを出そうとしていました。大輔からパスが来ませんでしたが、そこでパスをもらえていて狙っていたように裕陽にパスを出せていたらチャンスになっていたはず。パスを受けようとして大輔を呼んではいましたが、ただ「ハイ」といつもDFラインでパス交換する時の様には呼ぶのではなく、大輔に対して強く何度も「こいこい！」と呼ぶことで今パスくれたらチャンスやねんということを知らせましょう。パスしてくれるのを待つのではなく、味方からのパスを自分で引き出す声を出すことも大事な技術です。</p>	<p>SB時に大輔に対して近いですが、もう何ヶ月も言ってきた事です。大輔がワイドで持っている時に寄らない事をそろそろ考えるまでもなく反射で動くようになってください。</p> <p>相手スローイン時など、さほど相手選手の動き出しが早い訳もないのに捕まえておきながら動き出してもその場で立って離れてしまっているシーンが目立ちます。どこまででも話さずに食らいつき続けて前を向かせないようにしてください。</p>
39	小嶋大輔		<p>相手ゴール前でのチャンスが3回、2回のシュートはどちらも決めれる可能性が高かったのですが、そこで相手キーパーが触れないところにシュートを狙う技術を高めていきましょう。センターリングに関してはキーパーの触れないところへ良いパスを出せていたと思います。</p> <p>相手コーナーキックやスローイン時、はじめはマークにつけているのに飛んでいるボールに注目しすぎてマークを離れてしまっています。ボールがどこに行っても自分のマークの位置を常に把握しておき、いつ相手が動き出してもしっかりとついて行けるよう準備万端にしておいてください。</p>	<p>凌弥のシュートを止められなかった時にオンプレーなのに、凌弥に指を指していましたがあれはやめてください。サッカー選手がああいう所作するのはボールがラインを割った時です。ゴール自体はこの試合でも入りそうな気配はあったし、そこに入れているのは良かったので意識を切らない事を心がけましょう。</p> <p>SB時の縦に早すぎる意識が気になります。柘弥が近すぎたものもあるかとは思いますが、ひきつけてから柘弥に落として晴人を介して相手WGの裏でもらうような意識を持ってください。</p>
11	川上裕陽		<p>前半MFでプレーしているときは以前と同じように相手MFを捕まえる意識がなく自由にプレーさせていました。CFWでは相手を捕まえるというよりパスコースを塞いで追い込むという守備を意識してもらっていますが、MFでは相手MFをフリーにさせないようにしっかり捕まえて下さい。1人がそれをサボると他のMFが代わりにマークについてもその味方がマークした選手がフリーになり結局崩されてしまいます。ポジションごとの役割を理解してそれを意識しながら動いてください。</p>	<p>前半の序盤は捕まえようとしていたように思いますが、後ろから追いかけているだけで自由にさせています。相手にボールが渡った段階でスイッチを入れる事を徹底してください。ずっと言っているはずですが、ボールが入った時の質は高いですが、今のままではこの先必ず通用しなくなります。うまくサボる必要はありますが、頭だけは一切切らないようにして危機は未然に防ぎながら足元にボールが入った時に良さを発揮してください。</p> <p>サッカーはボールを持つ時間は2分です。残り70分間どうするべきかの質を高めてください。</p>
7	秋山碧斗		<p>後半からですが、ハーフラインに降りて縦パスを受けに入る動きを意識して出来ました。トラップしてから次の判断に時間がかかってボールを奪われたり、中盤へのパスを入れられず(味方MFの受けに入る動きもなかった)でそこからの展開はうまく行きませんでした。ハーフタイムの指示をしっかりと聞き、それを狙ってプレーできたことは1つの成長です。次は「縦パスを受けに行く」だけで終わらず、受けに入るタイミングやパスを受けたあとどうするかということを考えてプレーしていきましょう。</p>	<p>中盤に入った序盤ですが、りくと自体は選手を捕まえているつもりかも知れませんが、それは晴人がDFラインに寄せに行ったのを見て凌弥が捕まえていた選手にりくともよって行っていただけでした。捕まえる意思があるのは良い事なので、誰でも良いから捕まえるのではなく、味方は誰を見ていて、自分は誰を見るべきなのかをしっかりと観察してください。</p>
